

規則様式第2号

政 務 活 動 報 告 書

令和 6 年 / 月 29 日

丹波市議会

議長

堀内 廣明 様

会 派 名 公明党

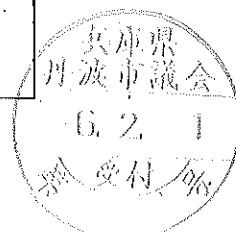
代表者氏名
又は議員名 須原 弥生

このたび、政務活動を実施しましたので、丹波市議会政務活動費の交付に関する規則第4条第2項の規定により、次のとおり報告します。

記

活 動 (調査) 期 間	令和 6 年 / 月 17 日から令和 6 年 / 月 18 日まで
活動 (調査) 先	・伊万里市民図書館 ・佐賀市役所
参 加 議 員	藤原 悟 須原 弥生
活動 (調査) 内 容 の 概 要	・伊万里市民図書館と「図書館フレンズいかり」 の取組 ・農福連携について

※議員それぞれの報告書及び参考資料を添付



決 裁								
議 長	委員長	委員長		局 長	課 長	係長	担当	担当

令和 6 年 1 月 29 日

丹波市議会議長 垣内 廣明 様

議員名 須原 弥生

丹波市議会政務活動報告書

実施年月日 令和 6 年 1 月 17 日（水）～令和 6 年 1 月 18 日（木）

視 察 先 ・伊万里市民図書館（佐賀県伊万里市立花町 4110-1）
・佐賀市役所（佐賀市栄町 1-1）

テ ー マ ・伊万里市民図書館と「図書館フレンズいまり」の取組
・農福連携について

研修内容と所感は別紙の通り
* 参考資料を添付

〈研修内容〉

伊万里市民図書館と「図書館フレンズいまり」の取組について

*伊万里市民図書館について

- ・伊万里市では、S42年の大水害で図書館が被害を受けて約20年間、公民館の一室を間借りした運営状態が続いた。その状況を憂いた母親たちが、S61年「図書館づくりをすすめる会」を立ち上げ学びながら提言する活動を続けた。見学した福岡市苅田町の滞在型図書館に感動。その後、苅田町立図書館と同じ設計者が伊万里市の担当となり「一緒にやりましょう」との呼びかけで設計の段階から市民が関わった滞在型市民図書館がH7年に完成。市民図書館という名称の由来はそこにある。延床面積4,374㎡、総事業費23億（財源は地方債16億、積立金6億、一般財源が5千3百万円）

職員は現在22名で11名が司書免許を有している。各職員が担当分野の本をピックアップして、週一で選書会議を行い、選書と除籍を丁寧に行っている。予算はR4年 約1億3千万円 R5年 約1億5千万円。

- ・どこまでも市民のための図書館を目指しており、多岐にわたる活動を展開されている。図書館完成前のH3年には自動車図書館「ぶっくん」開始、現在は2台に拡充。司書2名、運転手2名で毎週火～金曜日で76か所を巡回。市内全域サービスが目的。年間貸し出しの1/4は「ぶっくん」による貸し出しであり、団体貸出は、各学校や病院、施設等も巡回している。年間、貸出数はR4で337,949冊、1人あたり6.45冊で、コロナ前の1人7.77冊の貸出数には未だ戻っていない。
- ・図書館では様々なイベントも開催しており、例えば映画上映や作家トークショーや、R3年度からブックスタート事業は図書館で実施。ビジネス支援（相談デスク）もされ、オンラインデータベースの利用や、電子出版にも対応している。

*「図書館フレンズいまり」について

- ・私たちが生んだ図書館をしっかり育てていく、との思いで、「図書館づくりをすすめる会」から、友の会「図書館フレンズいまり」へ。図書館が出来たから終わりではなく、「協力と提言」を合言葉に、会員数は347名（R4、9月現在）。行政からの支援は受けず、会費や古本市、館内設置の販売機など、活動資金は自分たちで「稼い」で、図書館ボランティアグループへ助成金を出している。あくまで行政のパートナーとして、図書館長とも意見交換や情報交換をしている。会員の高齢化で、後継者づくりの課題はあるが、今年度、イベントに参加された方や、図書館に居場所を見出した方など10名の入会があった。「フレンズいまり」は、第3者的立場から提言をしたり、イベント開催のためにクラウドファンディングを行ったり、いざというときに頼りになる存在。文科省のHPで紹介されたり、第18回マニフェスト大賞優秀成果賞を受賞されたり、それらの活動は高く評価されている。行政とも良い関係が保たれており、市長や職員の多くがフレンズ会員である。

図書館の活動支援団体も10団体ある。例えば、図書館専属の合唱団やおはなし会、ライオンズクラブによる環境整備等、みんなで図書館を支援する体制が出来ている。

- ・館内の見学をさせて頂く。館内は広く、福祉喫茶、授乳室、本棚は車いすの方でも手が届く高さに配慮しており、一部を除いて飲み物持ち込みもOK。子どもが遊ぶスペースもあり、BGMが流れ、静寂な図書館のイメージとは少し違い、気を使わなくていい。音を遮断した書

斎は、一人の方からの要望に応じて設置。くつろぎコーナーやヤングコーナー、のぼり窯に似せたおはなし室、2Fには年数の経った図書等を公開している。「図書館フレンズいまり」の拠点も館内にあり、フレンズコーナーで手作りグッズや古本を土・日に販売している。

〈所感〉

- ・市民の皆様のお思いがいっぱい詰まった市民図書館だった。行政に任せることなく、行政に頼ることなく、それぞれの支援団体が役割をもって、行政と協働しながら運営されている理想的な図書館である。第3者的な立場で、提言ができる存在は大きい。
- ・図書館条例はH7年に全部改正され、第1条 設置及び目的は、「伊万里市は、すべての市民の知的自由を確保し、文化的かつ民主的な地方自治の発展のため、自由で公平な資料と情報を提供する生涯学習の拠点として、伊万里市民図書館を設置する。」になり、目的の中に思いが詰まっているものになっている。以前の文中の「知る権利」→「知的自由」に修正されたと聞き、素晴らしい条例は、施策にまで影響を及ぼすことを改めて実感した。
- ・高い割合で配置されている司書の存在は貴重だと思う。司書のなり手が減少する中、しっかり確保されている。図書館の本の配置や展示もきれいで、整理されているのが一目でわかる。これは司書というプロのなせる技だと思う。
- ・広域な丹波市でも移動図書館の取組ができないか。単に貸出数を増やすという目的ではなく、人とのふれあいや市民に開かれた市民のライフスタイルを高める図書館、人づくり・まちづくりを支える図書館を目指せないか。
- ・充実した図書館に感動した。今後の参考にしていきたい。

〈研修内容〉

農福連携について

- ・佐賀市は佐賀平野を有し、米と麦の二毛作に取り組んでいる所が多く、玉ねぎの生産も多い。特に中山間地域である、富士町、三瀬村の農業従事者は高齢化、減少が顕著である。初めは玉ねぎの収穫において人手が欲しいが、バイトも雇えない状況があり、JAやふくしネットへ相談があったのが発端で、問題解決として農福連携のあり方が模索された。
- ・佐賀市農業基本計画の見直し時のアンケートを行うなかで、農福連携の制度の周知の必要性や農業の労働力不足の実態が見えてきた。
- ・佐賀市内の就労A型支援事業所は21件、就労B型支援事業所は55件。これらA型・B型を対象として農福連携に取り組んでいる
- ・佐賀中部障がい者ふくしネットとは、
H14年に、市内の福祉作業所が加盟した佐賀市作業所連絡協議会が発足、H17年に佐賀市障がいふくしネットへ変更、H22年NPO法人設立、現在の「佐賀中部障がい者ふくしネット」となり、市が補助金を交付している。単体の団体のみでは実施が難しい活動を、それぞれの団体を集めて、各種イベントの共同出店、請負作業の共同受注、各種研修等を行っている。
- ・就労B型事業所の全国平均工賃は16,507円であるが、佐賀県の平均工賃は19,855円（2022年）である。時給500円の工賃を目指している。
- ・JAとの連携は、以前より図られており、特に佐賀北部地区農福連携推進ネットワークはH29に発足。R4年には、佐城地区農福連絡協議会が発足し、状況や課題、研修など定期的に会議を開催している。

- ・ふくしネットがコーディネーターとして、ニーズに対して、調整段階から作業開始までをサポートする体制が出来ている。コーディネーターは県から派遣され、作業の細分化や見える化、工賃の単価計算、スケジュール調整等、多岐にわたる役割を担う。
- ・県は、コーディネーターの養成に力を入れている。
- ・一般的に、障がい者就労支援 A・B 型事業所等制度の理解が出来ていない。固定観念があり、実際に障がい者の方と接するなかで理解が得られ、その成功体験を広げていくことが重要。
- ・コーディネーターは専門的知識や資格が無くても、農業者と障がい者の双方の意見や思いに寄り添いながら、ともに悩み、ともに考える立ち位置で関わっている。

〈所感〉

- ・丹波市の農福連携は、個々の就労支援事業所での草刈りを受注や、農地を利用して野菜を栽培する程度の現状であり、まだこれからの取組と感じる。今後、農福連携を促進させるためには、佐賀市のふくしネットやコーディネーターのような中間支援機構の体制整備が必要と感じた。佐賀市のふくしネットに値するのが、丹波市の障がい者施策推進協議会就労支援部会だと思うが、市が先導して各関係機関と連携強化を図り、研修会や会議を通して、活発化を図る必要があるにではないか。
- ・「丹波市農業・農村振興計画」には農福連携への取組が掲げているが、丹波市障がい者基本計画や障がい福祉計画、福祉プランに農福連携が謳われていない。産業経済部と健康福祉部が連携して計画に挙げて取組む必要があるのではないかな。
- ・まずは、農福連携に関するアンケートを実施して、農業と福祉の課題が農福連携で解決できるのか、調査してはどうか。
- ・農家の方も、社会貢献として作業依頼をしてくれるような理解と協力を得ることで、お互いを思いやり、支え合う地域が期待できるのではないかな。

以上

決 裁								
議 長				局 長	課 長	係長		
令和 6 年 1 月 2 6 日								
丹波市議会議長 垣内 廣明 様								
丹波市議会公明党 藤原 悟								
丹波市議会政務活動報告書								
実施年月日	令和 6 年 1 月 1 7 日（水）～1 8 日（木）							
研修場所	佐賀県伊万里市民図書館 佐賀県佐賀市議会							
研修内容	伊万里市民図書館「図書館フレンズいまり」の取組について 佐賀市の農福連携の取組について							
1. 研修内容	研修の概要・・・別紙 要点筆記、資料添付							
2. 感 想								
◎ 伊万里市「図書館フレンズいまり」の取組について								
・伊万里市民図書館は約 3 0 年前に建てられたのに、お話し室（読み聞かせ等）、ホール（映画上映等）の設置や配置の工夫等、素晴らしいと感動した。								
・伊万里市には図書館が一か所しかないため、伊万里市における自動車図書館の取り組みは、市民に寄り添う、市民に根付いた取組であると思う。								
・条例にあるように市民のための図書館、まさしく市民図書館の位置づけであり、市民の力→場の提供→生きがい→市民が育つ との考え方、進め方は見習うべきことであると思う。								
1/3								

- ・「図書館フレンズいまり」が図書館づくりから図書館に関わってきた歴史と思い、活動をお聞きし、ボランティアの方々をはじめ市民の情熱、パワーを感じた。

- ・「図書館フレンズいまり」が行政からの補助金、支援を受けていないことで、市民（ボランティア団体）と行政が対等な関係を保てるのは良いことだと思う。

丹波市について

- ・図書館サポーターの方々が書架の整理等のボランティア活動をされているが、市民のための図書館づくりを進めるためには、美術館にあるような「友の会」、
「図書館を育てる会」のような団体も必要ではと考える。

- ・丹波市のボランティア団体も高齢化や会員減少等の課題を抱えている。

これからのボランティア団体・活動のあり方について、市でできること（例えば、運営方法や活動の在り方、規約の例示）等があるのではないかと。

◎ 佐賀市の農福連携の取組について

- ・農福連携マッチングについて、流れを説明していただき、体系・体制がよく分かった。特にコーディネーターの役割の必要性・重要性も理解できた。

- ・中間組織（ふくしネット）とコーディネーター配置がうまく機能しており、また、JA、振興センターの支援があることが良いシステムだと思う。

- ・マッチングの件数が年々増加しており、また継続して利用している農家も多くあり、農福連携が進んでいることが分かった。

丹波市について

- ・当市も農福連携を掲げているが進展していない。福祉事業所で個々に農家と交渉・提携することは難しいと思うので、事業所とJA・農家をマッチングする中間管理組織の立ち上げや仕組みづくりを早急に作ることが必要と考える。

- ・丹波市では障がい者施策推進協議会に就労支援部会があるが、農福連携等の取組を進めるためには、各福祉事業所が加盟する「ふくしネット」のような法人を立ち上げることも検討する必要があると考える。
- ・当市では、例えば除草に手間のかかる山南地域の薬草農家との連携等もできるのではないか。
- ・佐賀市のように、当市の場合は兵庫県の取組と連携についても今後調査したい。
- ・現在、各業種で人手不足が問題となっている。当市における課題を整理する中で、福祉事業所と様々な分野の業種との連携を推進する組織（中間管理組織等）の立ち上げ等、福祉事業所と他業種との連携が少しでも進むよう研究したい。

以 上